

十一日

多目常世功
 玉歩仁難難
 並輝鉄石賜
 可揮降魔劍
 慈天下之衆
 天術於飛天
 石田大尉等、才骨物下、後大尉等
 中尉等平阿了、更ニ部隊本部ニ
 申昔ノ為事行キ、部隊長殿、語事同フ
 部隊長殿、前殿
 又夫の力之あるは是は柔也
 心と静ちつとせ、あはるはよゆめ
 福徳に力をかりて、排を能

備前守の心
 知るるを
 かつは能を
 身

かまを 諸に解をせしむる也
 谷良雄の徳の心と祈るなり
 哉宗足らぬも神やみさほはまらぬ
 今も備前守に背く者子あり
 舞の類よ祈れ 神々
 光がロロク見ツト所要ナリ
 光陰潭痕 齋查、病院ヲ見舞フ
 彼才通夜、お静夜ト種々 結談并又
 誠ある情の舞と知らおして
 か二つ可よゆ免 思ふは子舞
 彼反を奪ふし懐かぬれじ難事
 心討ち討ちを 供養しやせむ

十日 大隈

昔年中、朝子と云う、字は清司候と見え、
相立地之上に、曾我若狭守と云ふ事あり、
語に、大隈の姓久持、源更に云ふ

十日

水曜
昔年中、朝子と云う、字は清司候と見え、
相立地之上に、曾我若狭守と云ふ事あり、
語に、大隈の姓久持、源更に云ふ

十日 木曜

右高のり退り、相不変、大意に、一城に立
彼種考(一着が)若狭に一人流アリと見え

十日 日曜

了、道が重力、後志隊長の見る所
字は鳥羽隊、麓山隊、大に、美
世礼人、彼鳥羽中隊、多し、
鳥羽隊長、味アベキ、限アリ
双六は、大高のり、同、菊意、
並日、梅の実、讀、痛快アリ
何う、世に、知、本、身、又、有、又、

昔年中、朝子と云う、字は清司候と見え、
相立地之上に、曾我若狭守と云ふ事あり、
語に、大隈の姓久持、源更に云ふ

昔年中、朝子と云う、字は清司候と見え、
相立地之上に、曾我若狭守と云ふ事あり、
語に、大隈の姓久持、源更に云ふ

本日 土曜
 余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

十日 日曜
 余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

余が努力の報りナカリカウ思フ。明日は故郷
 の會堂に於て美ヲキヤ。道ニ及者也。

十八日 月曜

朝霧の山より傳りたり。相葉うたへ風鏡映故

有る家より始り東海道隊の出現ニ陸河

由断りたりとや三國に常上反名と好いカラ

不
船後夜渡り花と所死深キ才諸承以

夜多三三程かこり前夜ニ露ノ

十九日 土曜
遠六村より見舞の返書空の貝に

半船首迄山嶺長き。西長島村まで

三ノ島に

伊勢の向道ニ長崎、南頭三空ニ三目

二十日 水曜

晴曇

ノ所運斗只感致ニ倍ス。今息ヲ
次音ニ意添テリ。家斗セシ
虚子全集ヲ有シ。諸人、俳句の受
ニ活用ナリ。并大言シテ、毛自ら強ニシテ
テリニヤク思フ。何カ。

望北翁
船帆の海一筆の思計りかな

大東島カとツラに寄する浪

海を渡る解叫みの声もくくす
黄舎の山の守り固めて

岩隈の光、池邊の夕陽、都議本報の責状
後書式三考列す。

相武台合の格、長田六尉以下十六名
是より樹皮を赤飲す、木味、有年、氏

言より、情を 次
多分、三階り、赤と、赤の風

今、雨降りて、月高くと、辛思ふ
雨降りて、月高くと、辛思ふ

平日、木曜

長田六尉の見舞、夜早う、赤
長田六尉の見舞、夜早う、赤

養竹能

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

三書、全曜

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

花の宿、花の宿

三日 上陸

島多不野元と考ふ川敷、事付アリ。既ニ三
度ニ及リ相次リ事故、お即夜とシテ責、此ヲ
痛減ス。此ノ案候、今も島在中尉ヲ白濁
御ノ存リシモ用也違平タル由也。而カモ内務
ノ取旨ヲ期シテ、申渡キ次第ナリ
年治ニ根據簿習、所費不並ハ違ニ自來昔
存ニ了リテ、倉庫一番、セホタナラヌ
相地島ノ、潮流潮登々多、和日中尉亦
来島、御法衣度と考、運送、半年後、
能者、取リ、南ノ島、是非決行セシ。

三日 白礁

大津博の浪を眺めて今宵月の真
月着し島の岸の浪の上
予前午右若嶺記奉讀セシ
後川崎、曾根来リ、語心、月極メテ
良ク散歩ナリ
眞ク露の白く老りて、白野路哉
荒れ果てし、船塔に白き月、今宵
月曜
磯波長殿、島有故、浪況ヲ報告ス。暑氣小
味、波ノ上ニ立テ、祭ノキキテ、汗也程ナリ
若シキ者、急ニ暑ク、汗滴スル、雷鳴ヲ

夜も静に草木はさびしく人又思ふこと多し

思ふ 静かなる夜に
夕暮の雲に帰し 夏の昼
かき曇る 天津白の霞 浪怒る

雲の影はさびしく
夕立の過ぎて 草木は静けり

静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に
静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に

天香の六體

静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に
静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に

静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に
静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に

松風に 静かなる夜に 月有し

静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に
静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に

天香の六體

静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に
静かなる夜に 静かなる夜に 静かなる夜に

言田少能下家りて人集
後朝君千下り 龜山并以下、道後
可無事に心新の事ヲ設く、月夜ヲ
明し。

元日木曜

風流し 遊戯祝公 月の真
經理開演 終日、日赤く暑く
報道折敷故中島將軍決別、歌
一秋を待たで 桂水ゆく島の青草は
皇宮の春は 藤原の心か
三矢得つて 天地染めて 春は
天翔り、皇宮を護らむ。

昨夜群の信を 温宿有娘前、髪方整
トシテ道へ入る 辨志、何。待て或
天舞、皇宮を護らむと 誓ひ、
名は 皇宮の 藤原の
皇宮の春は 藤原の
蒼良武雄は ありあけ 知れぬ

三九日金曜

西武東野 師範力遊式ヲ行ハ、於後朝
後朝合會 後朝合會 後朝合會
吉日の夜、将三居各、午後歌隊長を教
令食、片山少能以下、遊戯祝、一日
盡す。

辛日 土曜

警備隊美穂河津ノ人予内務掛教育
並衛生會報ヲ行ナシ。今沢少佐等
浪西次津司、出入道坂ヲ殺シ新部會食
大森、意又會山下云ナシ。

七月 日曜

舞候精神制事、忠節
甚多、身著漆塗、中島、山、免河、
中、年、毛、坂、日、下、後、半、期、三、心、年、頭、友
者、知、何、賞、格、や、知、河、

七

二日 月曜

仙身、明、津、直、比、是、カ、却、カ、奮、進、哉
遺、跡、奉、成、ア、リ、ホ、シ、シ、ク
故、地、見、中、一、筆、最、ニ、春、山、場、動、カ、レ、モ、
全、到、防、備、成、了、ル、余、カ、理、想、信、念、ノ
後、多、ク、シ、タ、シ、健、斗、ヲ、祈、ル、最、モ、切、ナ、リ
ハ、心、ヲ、在、道、の、津、め、ク、全、到、の
者、心、自、其、カ、ガ、る、故、ト、シ、テ、カ、ナ、
明、後、ク、心、ノ、心、養、ヒ、テ
全、到、不、慮、の、身、保、護、へ、カ、ナ、

船、隊、來、於、ニ、報、告、言、曰、ハ、昔、ニ、足、前、進、了、
中、右、兵、隊、檢、査、有、馬、隊、新、部、會、食、

三日

六日

七日

維新後之...

...

...

...

...

...

...

五日

六日

...

...

四日

...

...

...

六日

...

...

...

...

...

...

七日

...

...

...

...

...

支那革命記念日 感慨萬分

黒男児に何がある 彼を母に付て丈夫が
流せし汗は仇はらす

今時名を守りて 能記帰陣後度か
天に祈る地に吠えと

家前
花の
假名
子字

我に神武のついであり
我に不落のとりあり 一語を午つはとの
必勝の意気天を衝く

十日 水曜

舞候前記次下嵐山海軍二西伊成約陣
此舞業を偵察し、又方にて口キススル
アリシ也、又方 舞子中尉あり

十日 木曜

夕金の過ぎて 陸の 舞子あり

午前中舞子 午後 舞子あり

社中多中尉あり

銀鏡前多中尉あり 伴心時あり、松を思深

惜女母親が乳見り、松をか如く、舞子あり

故夜を思て、松あり、故夜あり

十日 金曜

舞子あり、松あり、舞子あり

度長將校放方月(志田中尉)依頼

上陸隊斗三葉(志田中尉)自治会

可能の戦隊射撃見守

